エネルギー・化学・発電プラント向けバルブの総合エンジニアリング企業として、基幹産業に貢献しています。

1939 年に設立された石田バルブ工業株式会社は石油精製・石油化学向けのバルブの製造販売でリーダーでありました。これは日本経済の進歩と一致して居ります。
会社はバルブの製造と販売を増強するため1963年に修理の設備を開始しました。
1980 年代まで日本の市場ではほぼ独占的に日本製品を使用して居りました。1990 年代になって石油精製、石油化学の分野で国際化への動きがありました。この要請に応えてこの市場に適合するバルブと部品を供給するため当社は他国の製造会社と契約を結びました。その結果、良質の製品を低価格で提供できるようになったのです。当社は現在、韓国、中国の製造会社と協力関係にあります。21 世紀に入り我々は他国のメーカーと協力して共存共栄の時代を迎えることを期待して居ります。この協力関係には、製品や部品の再販のほかに技術の交流が含まれています。当社は、バルブ製品の製造、販売、修理、保守に関して協力的取極めをすることに関心のある企業からの引合を歓迎いたします。

ユーザー・インの思想のもとに、常にベストな製品、サービスをお届けします。

石田バルブ工業の生み出すバルブは、エネルギー・化学・発電プラントにとって欠くことのできない重要な機器であり、少しでも異常があるとプラント全体に影響をおよぼすことにもなりかねません。
石田バルブ工業が最も重視するのは、「信頼性」と「耐久性」です。
生産工程においては「常にベストな製品」をお届けするために、各工程で製品を一品ずつ、慎重に検査しています。
また、メンテナンス事業についても、小さな努力の積み重ねが、優れた品質につながる、と私たちは考えています。
常に使う側、利用する側に立って、改良を進めることが、真に優れた製品づくりにつながると考えています。
「ユーザー・インの思想のもと、常にベストな製品、安全をお届けする」
———それが私たち石田バルブグループのモットーです。

「ベストな製品と安全をお届けする」をモットーとした石田バルブグループ85余年の歩み。

1931(昭和6)年6月
石田バルブ製作所創業(個人経営)、高性能バルブの国産化を開始。

1935(昭和10)年3月
米国・バッジャー社の指導を受け、石油精製用鋳鋼バルブの製造を開始。

1939(昭和14)年1月
株式会社石田バルブ製作所を設立、個人事業を引き継ぐ。

1949(昭和24)年1月
石田謙一郎社長、全国バルブコック協議会(日本バルブ工業会前身)会長に就任。

1959(昭和34)年1月
中小企業庁から中小企業合理化モデル工場として指定を受ける(1961年、1963年にも同指定を受ける)。

1961(昭和36)年6月
石田バルブ工業株式会社に商号変更。

1963(昭和38)年4月
徳山工場(山口県)を開設。
(石田バルブエンジニアリング(株)徳山工場の前身)

1963(昭和38)年10月
千葉工場(千葉県)を開設。
(石田バルブエンジニアリング(株)千葉工場の前身)

1965(昭和40)年10月
東京所在の工場を埼玉県大宮市に移設、東京工場として開設。

1967(昭和42)年10月
A.P.I(アメリカ石油協会)より品質と技術を評価されAPI600モノグラム表示工場認可。(1977年にもAPI6Dモノグラム表示工場認可)

1971(昭和46)年3月
石田バルブエンジニアリング(株)を設立。

1972(昭和47)年8月
通商産業大臣から「高圧ガス設備試験製造認定事業所」に認定される。

1972(昭和47)年10月
鹿島工場(茨城県)を開設。
(石田バルブエンジニアリング(株)鹿島工場の前身)

1975(昭和50)年8月
米国・ランケンハイマー社と販売提携をする。

1976(昭和51)年10月
オーストリア・ホルビガー社と技術提携をする。

1990(平成2)年11月
徳山新工場を開設(旧工場を移設)。

1991(平成3)年3月
フランス・ギション社とメンテナンスに関する技術提携をする。

1992(平成4)年4月
オランダ・モクベルト社とメンテナンスに関する技術提携をする。

1992(平成4)年6月
千葉工場を全面建替え拡張。

1998年(平成10)年
東京工場埼玉県大宮市より同県北本市へ移転。

2013年(平成25)年12月
本社東京都港区芝より東京都港区芝浦へ移転。